

神田伊織 第3回ネタおろし勉強会

日 時：2022年5月3日（火）10：00～11：30

場 所：なかの演芸小劇場

演 目：（古典）『阿部善四郎忠秋、隅田川乗り切り』
（新作）『レ・ミゼラブル』

内 容：

（1）報告事項

この9月に二枚目に昇進することが報告され、11月の日本橋教育会館での昇進祝いの公演会の予定や、来年1月からは2か月に一度、なかの演芸小劇場での公演の機会を与えられていることなどが報告された。今後の新作などについては「便乗商法」を考えており、その手始めにミュージカルや映画となって人気のある『レ・ミゼラブル』を講談に取り上げるつमりの話などがされ、当日早速その一部が披露された。

（2）講談・古典『隅田川乗り切り』

恒例の3代将軍家光と旗本の稽古試合で、次々と豪の者の旗本がわざと家光に敗れていくのを見て、阿部善四郎忠秋は一人本気を出して家光を負かして不興をかけてしまう。その年の秋、重陽の節句で菊を愛する歌を家光が詠み、皆が絶賛する。皆にも歌を詠ませると、忠秋が歌を詠んで人づてに渡すと、家光はその優れた歌が忠秋の作と知ってまたも立腹してその席を立ててしまう。忠秋は家光の不興が解けぬことで切腹を決心するが、老臣の平田団衛門と妻の諫めで思いとどまる。

次の年の夏、日照りが続いた後の長雨で隅田川が氾濫し、家光は家臣の忠言で市中の見舞い見回りをした時、濁流と化した隅田川の対岸を馬で乗りきる者はいないかと問うが誰もそれに応えない。そのとき、忠秋が敢然とその激流の中に馬を乗り入れ、家臣の団衛門も主人に遅れじと続き、二人とも無事に渡り切る。そこではじめて家光の勘気も解け、忠秋は3万石の大名に取り立てられ、その後も加増され出世するという物語。

（3）講談・新作『レ・ミゼラブル』

ジャンバル・ジャンはたった一切れのパンを盗んだため投獄され、何度も脱獄をはかったために19年もの間投獄され、やっと釈放されても犯罪者の証である黄色の通行証のために、行く先々で食事も宿泊も断られる。やっと教会の牧師の家で食事と一晚の宿泊の場を得るが、その家の銀の食器を盗む。憲兵に捕まったジャンバル・ジャンがその牧師の家に連れて来られると、銀の食器は与えたものであり、おまけに銀の燭台まで与えられるという、『レ・ミゼラブル』の物語の発端が語られた。

【感想】

「便乗商法」と謙遜しているが、新作のテーマは神田伊織は東大で仏文学を専攻されているだけに格好の素材だと思うし、今後の新境地開拓としても素晴らしい目の付け所だと思った。フランス文学には『モンテ・クリストフ伯』（一名『巖窟王』）や『三銃士』など面白い話がいくつもあるので、今後の発展、展開が楽しみ。